

声かけ模擬訓練の様子



つながれ!! 地域のオレンジの輪



オレンジリング

○認知症高齢者声かけ模擬訓練を実施しました

10月23日に、認知症高齢者が徘徊していることを想定した「認知症高齢者への声かけの訓練」を実施しました。

当日は、徘徊する高齢者役に扮した地域包括支援センターの職員が、商工会・郵便局・農協・コンビニを含む9箇所の声かけポイントを歩き、参加者から「どこに行くの」「どこから来たの」「何しに行くの」などの声をかけました。

参加した方からは、「認知症は、家族にとっても大変な病気。地域で支えていかなければいけない。」といった意見がありました。

また、高齢者役の職員からは「質問攻めにされると圧迫感がある」「背後からの声かけには気づけない」といった意見がありました。

認知症による行方不明者は少しずつ増えています。その原因となる徘徊は、事故やケガなど様々な危険が伴い、早期発見・保護が大切です。住民のみならずの見守りや協力が早期発見につながります。

この訓練をきっかけに、認知症の方やその家族が安心して暮らし続けることができる町づくりにつながっていきたいと思います。



○まずは、サポーターになろう

認知症の方や家族を支えることは、認知症について正しい知識をもつことから始まります。

本町では、認知症の方や家族を見守る「認知症サポーター」の養成講座を開催しています。

興味のある方は、地域包括支援センター、または、健康福祉課までお問い合わせください。

○お問い合わせ

健康福祉課 高齢者支援G
☎(84)0006 (直通)